

ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山

競技運営指針

【共通ルール】

1. リーグ：

「ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山」では、

- ・ 世界大会への選抜を目的とする「World League (ワールドリーグ)」
 - ・ 国内でのロボカップジュニアの活動普及を目的とする「NIPPON League (日本リーグ)」
- の2リーグを用意します。

NIPPON League (日本リーグ) は、ジャパンオープンを頂点とし、世界大会への選抜は行いません。

2. 年齢制限の下限：

年齢の下限の制限は設けません。ただし下記の点に留意してください。

- 1) インタビューで、自分のロボットに関する質問に答えることができず、「自分で作成していない」と判断された時は失格になることがあります。
- 2) ワールドリーグでは、国際ルール 2019 において下限年齢が定められた場合、下限年齢を下回るメンバーを擁するチームもしくはメンバーについて、世界大会への推薦は受けられません。ただし、対象年令でないメンバーを外して、世界大会の参加資格を満足するチームの場合、エントリー可能であれば選抜対象とします。

※ロボカップ 2019 年シドニー世界大会では、13 歳以上 19 歳以下。(2019 年 7 月 1 日時点)

<参照> <http://junior.robocup.org/robocupjunior-general-rules/>

3. チーム人数の上限：

ワールドリーグは 5 名、日本リーグは 6 名とします。但し、ワールドリーグについては、国際ルール 2019 においてチーム人数の上限が変更となった場合、世界大会に選抜されたチームは、世界大会出場にあたってチーム人数の変更を余儀なくされることを了解ください。

※ロボカップ 2019 年シドニー世界大会では、チームのメンバー数はサッカーとレスキューにおいては 2 人以上 4 人以下、OnStage は 2 人以上 5 人以下。

<参照> <http://junior.robocup.org/robocupjunior-general-rules/>

4. 電池のルール：

ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山における、リチウム系充電電池の取り扱いについては、サッカー技術委員会の決定に基づき、全リーグ共通で以下のようにルールを定めます。

【リチウムイオン二次電池使用に関するルールについて】

◇注意事項◇

- リチウム系充電池を使用したロボットで大会に参加する際には、本ルールを十分に理解し、順守してください。大会運営委員は使用者の理解が不十分と判断した場合、充電池の使用を禁止することがあります。
- 本ルールに違反していることが分かった場合、カードの提示や、リチウム系充電池の使用禁止といった処分を受ける可能性があります。
- 本ルールは、特定の電池による大会参加を制限するものではありません。

1 リチウム系充電池を使用するにあたって

このルールは、事故の無いロボット製作、大会進行のため、以下を目的として作成されています。

- ① 電池からの発煙、発火およびそれに伴う火災や、それによる負傷等を防止すること
- ② 事故防止のため、選手に電池の原理や危険性、正しい使用方法についての知識を身に付けるよう促すこと
- ③ 万が一事故が発生した際に取りるべき適切な対応について、選手、スタッフがあらかじめ理解しておけるようにすること

リチウム系充電池には、現在一般的に手に入る充電池の中で「容量や出力が大きく、その割にサイズが小さい」という特徴があります。これは、充電池を使用した製品を作る側からすると非常に魅力的な特徴で、リチウム系充電池はスマホやノート PC をはじめ、自動車や旅客機にも使用されています。ロボカップの皆さんにとっても魅力的に映ることでしょう。実際に、サッカーチャレンジを中心に多く使用されています。

しかし、利点があれば欠点もあるものです。リチウム系充電池は、アルカリ充電池やニッケル水素充電池に比べ、より慎重な取り扱いを必要とします。それは、リチウム系充電池が以下のようなリスクを抱えているからです。

- 発熱、破裂、発煙、発火、爆発、炎上
- 上記による延焼
- 有毒ガスの発生、有毒な液体の飛散
- 発生、飛散した有毒物質による失明などの後遺症

これは、充電池の取り扱いを誤った場合、自分や自分のロボットだけでなく、**他人を傷つける加害者になる可能性がある**ことを示しています。従って、リチウム系充電池を使用する際には十分な安全対策を行い、取り扱いには細心の注意を払う必要があります。

さて、十分な安全対策を行い、取り扱いに細心の注意を払うためには、何が必要でしょうか。それは、**正しい知識と油断しない心**です。例えば、モータドライバに規格外の電圧をかけたり、モータがロックしているのにそのまま放置して大きな電流を流したりすると燃えるということは、

ロボカップの皆さんならよくご存じのことかと思います。モータドライバを燃やさないためには、電気回路に関する正しい知識と、常に状態を気に掛ける心を備え、安全に運用する必要がありますよね。「知らなければ使えない」という心構えが重要です。

リチウム系充電機についても全く同じことが言えます。皆さんはリチウム系充電機について勉強しましたか。リチウム系充電機はどのようなことが原因で発煙や発火を起こすのでしょうか。また、そのような事象が起こった際にはどのように対処すればよいのでしょうか。その充電機は自分のロボットに適合していますか。リチウム系充電機を安全に運用することができますか。

このドキュメントでは、冒頭に記載した目的を達成するため、リチウム系充電機の使用に関する規定を定めています。注意していただきたいのは、この規定を守っているから安全という訳ではないということです。このドキュメントは、皆さんが安全に電池を運用できるようにサポートすることです。実際に運用する皆さんに正しい知識と油断しない心が備わっていなければ、意味はありません。

最後に、最も重要なことを述べます。「いくら安全に気を配っても事故は起こる」ということを忘れないでください。製品評価技術基盤機構の発表によると、ノート PC やスマホに内蔵されたリチウム系充電機の発煙・発火事故が、2012年4月から2017年3月までの5年間に少なくとも274件発生しています。プロの技術者が設計し、製造した製品でもこれだけの事故が発生しているのです。事故が起こらないように安全対策を行うことも重要ですが、事故が起こっても大きな問題にならないような設計を行ったり、事故に対する適切な対処が取れるよう準備したりしておくことも同じぐらい大切なことです。

2 本ルールが適用される充電機

リチウム系充電機は、電池の材料によりコバルト酸リチウム電池、マンガン酸リチウム電池、リン酸鉄リチウム電池などに分類することができます。それぞれ電圧や放電レート、エネルギー密度や安全上のリスクが異なる電池ですが、ここではこれら全てをリチウム系充電機として、本ドキュメントで定める規定の対象とします。

ただし、LEGO EV3のバッテリーなど、製品として一体化しているものについては本規定の対象とはしません。各製品の取扱説明書に従い、安全管理を行ってください。

3 充電機のラベル、ドキュメント、購入記録に関する規定

充電機は必ず取扱説明書に従って使用しなければなりません。電池を安全に使用するため、使用する電池には以下の2点が揃っていることを確認してください。また、チームメンバーは以下の2点に記載されている内容を理解していなければなりません。

- ① 本体に、電圧またはセル数、容量、メーカーまたはブランドまたは商品名称が記載されているラベルが貼り付けられていること。

- ② 電池を安全に使用するために必要な以下の事項が記載されているドキュメント（本体のラベルに表記されていても可）が存在すること。
- 電圧またはセル数、容量、放電レート、充電レート、商品名称（型番）
 - 安全に使用するための注意事項

なお、ドキュメントについては紙媒体、電子媒体を問いませんが、大会期間中いつでも速やかに参照できなければなりません。また、複数のドキュメントを合わせて①,②を満たしてもよいです。ただし、ドキュメントの提供者はメーカーまたは PL 法に基づく製造者責任を有する販売者である必要があります。

参考；

販売者 A から購入した電池については、販売者 A およびメーカーから提供される資料によって①,②を満たす必要があります。例えば、販売者 A が②の情報を提供していなかった場合、メーカーが提供している資料を②として使用することはできますが、同じ商品を販売する販売者 B が提供する②の資料は使用できません。

また、充電電池の販売者、購入日時が確認可能な納品書またはメール等の書類を保管しておくことを推奨します。

4 充電電池の状態に関する規定

破損している充電電池や劣化が進んでいる充電電池は、発煙・発火のリスクが非常に高いと言えます。また、自作した電池や改造を施した電池も非常に危険です。そのため、使用する充電電池については以下の状態を満たしていなければなりません。

- ① 電池パックに明らかな膨らみがないこと。
- ② 被覆の破損が無いこと。
- ③ 被膜の上からビニールテープを巻くなどの加工が行われていないこと。
- ④ 本体、ケーブル、コネクタに破損が無いこと。
- ⑤ 生セル、自作品、改造品ではないこと。コネクタの変更も改造に含む。
- ⑥ これまでに過充電、過放電状態になったことが無いこと

5 総電気容量に関する規定

リチウム系充電電池の総電気容量は、45Wh 以下（サッカーライトは 23Wh 以下）とします。

また、14500 電池、18650 電池、26650 電池、32650 電池など乾電池型のリチウム充電電池を除き、充電電池の直列、並列使用は禁止です。

6 保護回路に関する規定

使用するバッテリーに適合した専用 IC を用いた、過電流・過放電に対する保護回路を作成または購入し、ロボットに搭載しなければなりません。

また、ロボット制御回路内のショートに対する対策として、保護回路と制御基板類との間に 20A

以下のヒューズを取り付けなければなりません。

7 充電機の固定に関する規定

ロボット内に搭載される充電機は、ロボット同士の衝突等で内部短絡等の破損を起こすことがないように固定、保護されていなければなりません。具体的には、非導電性の材料を用いて、電池と固定部品が面で接するようになる必要があります。(金属製のネジやナットを用いて電池を囲むような固定方法は認められません。)

8 充電器に関する規定

充電する充電機メーカーの指定品・推奨品または、充電機の規格に適合した充電器であり、なおかつストレージモードを有する充電器を使用してください。充電機メーカーの指定品・推奨品であっても、ストレージモードの無い充電器は使用できません。

充電器の使用法、安全に使用するための注意事項が記載されたドキュメントが存在しなければなりません。ドキュメントは紙媒体、電子媒体を問いませんが、充電器メーカーまたは PL 法に基づく製造者責任を有する販売者が提供するもので、チームメンバーが十分に理解できる言語で記載されている必要があります。

9 充電時の取り扱いに関する規定

充電機メーカーの指定品・推奨品である充電器で充電する場合は、説明書に記載された指定の通りに充電を行わなければなりません。規格のみ適合した充電器である場合は、充電レートは 1C 以下とします。それを超える電流での充電しか行えない充電器は、使用できません。

大会期間中の充電は、各自パドック内で行います。充電中は、周囲のチームに分かるように「充電中」の掲示を行い、1 名以上のチームメンバーが温度の上昇、本体の膨張といった不具合・危険な兆候などが無いかを常に監視しなければなりません。「充電中」の掲示板は、机の上で自立する必要があります。高さ 20cm 以上、幅 10cm 以上とします。

ロボットにバッテリーを搭載したまま充電してはなりません。

セーフティーバッグなど、何かに覆われた状態で充電してはなりません。

充電完了後は速やかに取り外し、非充電時にバッテリーが充電器に接続されていないようにしなければなりません。

10 保管、持ち運び時の取り扱いに関する規定

バッテリーを保管、持ち運びする際には、必ずセーフティーバッグを使用してください。また、長時間ロボットを使用しないときには、バッテリーを取り外してください。

11 会場への持ち込みについての規定

リチウム系充電機を大会会場に持ち込む際には、充電機のストレージモードで放電または充電し、電池の電位が安定した状態で持ち込まなければなりません。満充電の状態や、残容量が少ない状態は、電池の運搬に適した状態ではありません。

12 その他取り扱いに関する規定

(全ての電池に言えることですが、) 電池をロボットに接続したまま、ハードウェアに変更を加える作業を行ってはなりません。

13 電池検査について

大会期間中使用する充電電池は、全て電池検査をクリアしたものでなければなりません。電池検査は毎日行われ、以下の点について確認を行います。

- 使用する充電電池およびロボットが 3～7 章の規定を満たしているか
- 使用する充電器が 8 章の規定を満たしているか
- 使用する充電電池の終端電圧の確認

14 非常時の対応について

充電中の以上過熱や膨張など、異常事態が発生した場合、自身および周囲の安全を優先しつつ、速やかにスタッフに報告し、その指示に従って行動しなければなりません。また、自身の対処によって問題が収束し、発煙など大きな問題が発生しなかった場合でも、速やかにスタッフに報告し、その指示に従って行動しなければなりません。

【World League (ワールドリーグ)】

上位チームを世界大会へ推薦します。世界大会に選抜されたチームはメンバー全員が世界大会の参加資格(人数制限、対象年齢)を満足することが条件となります。ただし、対象年齢を満たさないメンバーを外した後に、世界大会の参加資格を満足するチームは推薦対象とします。

■ワールドリーグ選抜の特例(ジャパンオープンにのみ適用)

1. WL の固定枠について

- 現時点での妥協案としては、各ブロックへの固定枠 1 は維持する。
- ブロック大会エントリー締切時点において参加チーム数が“0”で、ブロック大会にて競技が実施できない場合、その競技カテゴリの固定枠は返上する。
- ブロック大会エントリー締切時点において参加チーム数が“1”で、ブロック大会にて競技が実施されなかった場合、そのチームがジャパンオープンに出場できるレベルにあるか客観的評価が無いことから、次の 2 点を試験的に実施する。
 - ① 近隣の地域で開催されるノード大会もしくはブロック大会に出場する。どちらに出場するかは、受け入れブロックの方針による。
 - ② 「ビデオ+審査書類」でブロック推薦として認めるか否かを試験的に実施する。

※該当する競技の技術委員会より、チームに上記①にするか②にするか、希望を確認する。

①を希望した場合、どこのブロックに出場するか、チームの意向を確認する。

なお、ブロック大会においてどの競技を実施するか、及び、他ブロックチーム受け入れ可能かどうか、理事会が別途資料を作成して公表する。

2. WL の「ビデオ+審査書類」について

- WL サッカー、レスキュー、OnStage について、ブロック大会の参加チームが“1”で、ブロック大会にて競技が実施されず、そのチームがジャパンオープンに出場でき

るレベルにあるか客観的評価として有効であるかを試験的に実施する。

- ▶ 「ビデオ+審査書類」の実施については、別紙「ワールドリーグ・ビデオ審査申請書類」及び審査対象資料を定められた方法で提出し、技術委員会が審査にあたる。

■ワールドリーグ・サッカー

1) サブリーグ：

国際ルールに準じたリーグ構成とし、Light Weight と Open の2つのサブリーグを設けます。

2) 年齢制限：

ロボカップジュニアの参加資格年齢（2019年7月1日時点で19歳以下）を満たし、ジャパンオープン 2019 和歌山の共通ルールを順守している限り、特段の年齢制限は設けません。

3) チーム人数：

2名以上5名以下とします。

4) 適用ルール：

「ロボカップジュニア サッカールール 2018」を採用します。

<https://drive.google.com/open?id=1U-x-x8M4dHNWHIONq5DcHKfdYlueIToP>（日本語）

※ロボカップ 2018 年モンリオール世界大会では、両サブリーグともに競技の一部としてテクニカルチャレンジ（Technical Challenge）が新たに加わります。

<参照> <https://rcjinternational.blogspot.jp/2017/12/2018.html>

5) 初版調整日の車検：

調整日の車検を行う。車検全般でなくても特にロボットの安全面に注目して車検を行い、車検に通らないロボットは動かすことができないこととします。

6) ロボットの台数：

ジャパンオープン 2019 和歌山では1日目と2日目で異なるロボットを使うことを禁止します。例えば、3台（ABC）のロボットを持って来て、初日はAとB、二日目はAとCを使用することはできません。日にちが違って同じ2台のみを使用可能とします。

■ワールドリーグ・レスキュー

1) サブリーグ：

国際ルールに準じたリーグ構成とし、Line と Maze、Rescue Simulation (CoSpace)の3つのサブリーグを設けます。

2) 年齢制限：

ロボカップジュニアの参加資格年齢（2019年7月1日時点で19歳以下）を満たし、ジャパンオープン 2019 和歌山の共通ルールを順守している限り、特段の年齢制限は設けません。

3) チーム人数：

2名以上5名以下とします。

4) 適用ルール：

<ワールドリーグ・レスキュー・ライン>

2019ルールを適用します。

但し、フィールドの作り直しが必要なルールの変更がある場合、または、2018年末までにルール

公開がされない場合は、2018 ルールを適用します。

<参考情報>

➤ 2018 ルール

なお、ルールは翻訳版よりも 英語の原文が最上位に位置づけられていますので、原文をご一読願います。

http://junior.robocup.org/wp-content/uploads/2018Rules/rescue_line_rules_final_2018.pdf (英語)

<https://drive.google.com/file/d/1j0Dl2QB9Zm0Jnt86rKxVbsObDvCWy147/view?usp=sharing> (日本語訳)

➤ 2018 ルール運用

世界大会 2018 に準じた下記の審判講習資料に従います。

https://drive.google.com/file/d/17jDodEgjWWTgUbzqoMLNhpYYT6WN_KUS/view?usp=sharing (英語)

<https://drive.google.com/file/d/1OT4JWXzEIWv9TpEOXIF045LKFmrAElcj/view?usp=sharing> (日本語訳)

<ワールドリーグ・レスキュー・メイズ>

2019 ルールを適用します。

但し、フィールドの作り直しが必要なルールの変更がある場合、または、2018 年末までにルール公開がされない場合は、2018 ルールを適用します。

<参考情報>

➤ 2018 ルール

なお、ルールは翻訳版よりも 英語の原文が最上位に位置づけられていますので、原文をご一読願います。

http://junior.robocup.org/wp-content/uploads/2018Rules/rescue_maze_rules_final_2018.pdf (英語)

<https://drive.google.com/file/d/1nLSZ2pMPeQFHJUCiU7awXVcmdYOvedee/view?usp=sharing> (日本語訳)

➤ レスキューキット

http://junior.robocup.org/wp-content/uploads/2018Rules/rescue_maze_rescue_kit_2018.pdf (英語)

https://drive.google.com/file/d/178kqXIYJ-hAQFXlnNGLp_G3weD0YVBO0/view?usp=sharing (日本語訳)

➤ 2018 ルール運用

世界大会 2018 に準じた下記の審判講習資料に従います。

<https://drive.google.com/file/d/1ySkNBMxcDKej-sbYZ525AXNS6TEMaQlm/view?usp=sharing> (英語)

<https://drive.google.com/file/d/1Ja0uckAbFo7bcYtkLAqwOMA2xzCa6Nz0/view?usp=sharing> (日本語訳)

<ワールドリーグ レスキュー・シミュレーション (旧 CoSpace)>

2018 モントリオール世界大会のルールに準じます。(必要に応じて技術委員会よりローカルルールを加える可能性があるが、それについては適宜案内します)

・ルール

http://junior.robocup.org/wp-content/uploads/2018Rules/rescue_sim_rules_finalb_2018.pdf

(英語)

・テクニカルデモンストレーション

http://junior.robocup.org/wp-content/uploads/2018Rules/rescue_sim_presentation_final_2018.pdf (英語)

・ Team Description Paper (TDP)

http://junior.robocup.org/wp-content/uploads/2018Rules/rescue_sim_tdp_final_2018.pdf (英語)

※参加条件として、必ずレスキュー・シミュレーション (旧 CoSpace) のブロック大会およびジャパンオープンにてチーム関係者 (メンター、保護者、OBOG) が1人以上、競技運営に協力いただけること。

■ワールドリーグ・OnStage

1) サブリーグ :

国際ルールに準じたリーグ構成とし、Advanced と Preliminary の2つのサブリーグを設けます。

2) 年齢制限 :

ロボカップジュニアの参加資格年齢 (2019年7月1日時点で19歳以下) を満たし、ジャパンオープン 2019 和歌山の共通ルールを順守している限り、特段の年齢制限は設けません。

3) チーム人数 :

2名以上5名以下とします。

4) 適用ルール :

ワールドリーグのルールについては、国内特有のルールを反映させた国内版ルールとなります。

OnStage ワールドリーグ 2019 国内ルール

https://drive.google.com/open?id=1wDP3vRay_pW3gnUtXuUwcfddxzpbMAXu

OnStage ワールドリーグ 2019 大会用 OTD スコア

https://drive.google.com/open?id=1OC3PIyashTL_wjIPQ73axr23PgBuhVqw

OnStage ワールドリーグ 2019 大会用インタビュースコア

<https://drive.google.com/open?id=16IRdN0o58zoX6F7S4ov-hi6LMm4gCO55>

OnStage ワールドリーグ 2019 大会用パフォーマンススコア アドバンスト

<https://drive.google.com/open?id=1O-JaNeg4TFmbrZR5PS7yGu9i8zPKSMdO>

OnStage ワールドリーグ 2019 大会用パフォーマンススコア プレリミナリー

<https://drive.google.com/open?id=1oDre3ldHiz8eDTUBU9sZRSJNTAsMZo6v>

【NIPPON League (日本リーグ)】

国内でのロボカップジュニアの活動の普及を目的とするリーグです。世界大会への選抜は行いません。

■日本リーグの共通ルール(ジャパンオープンにのみ適用)

1. NL の年齢制限について

- NL は原則として、ロボカップジュニアの世界大会参加資格年齢上限 (現時点のルールでは世界大会開催年7月1日時点で19歳以下) を満たし、ジャパンオープンの共通ルールを順守している限り、特段の年齢制限は設けない。

ただし、NL と WL の競技ルールは技術面やプレゼン面での違いを明確に設けるために、各技術委員会の判断で年齢制限を設けることを認める。

例)

◇ OnStage 技術委員会では NL の参加資格を中学生以下に制限している。

2.NL の複数回出場について

- NL は選手自身の年齢が世界大会に出場できる最低年齢に達するまで複数回の出場を認める。
年齢の判断は、ジャパンオープン（又は日本大会）開催日とする。
- ジャパンオープンの表彰チーム(プレゼン賞や特別賞は除く)に所属する選手は、年齢に関係なく翌年は WL へのチャレンジを奨励する。
- WL 出場経験が 1 回以上ある選手は、NL への出場経験がない場合であっても、NL への出場は不可とする。(追加事項)
- 2019 年和歌山大会から導入する。

(参考)

- ◇ RCJ では 2019 世界大会の最低年齢は 13 歳、2020 世界大会の最低年齢は 14 歳としている。
- ◇ 2019 和歌山の開催日 4/28,29 時点での年齢による NL 出場可否は以下のとおりとする。

例 1) NL 出場経験がない選手の場合

- ・ 13 歳の選手は、2019 和歌山の NL 出場は可、2020 も NL 出場可、2021 は不可。
- ・ 14 歳以上の選手は、2019 和歌山の NL 出場は可、2020 は NL 出場不可。

例 2) NL 出場経験がある選手の場合

- ・ 13 歳の選手は、2019 和歌山の NL 出場は可、2020 も NL 出場可、2021 は不可。
- ・ 14 歳以上の選手は、2019 和歌山の NL 出場不可。

3. NL 競技運営資料の作成と各ブロックでの実践について

- 「競技運営ガイドライン」は NL・WL 両方で利用できる内容とし、理事会メンバーと各 TC メンバーからなるワークグループを構成し制作にあたる。
- 編集作業は理事会メンバー、TC は資料提供や監修役とする。
- 「競技運営ガイドライン」は公式 HP で公開(PDF)し、各ブロックで活用する。ただし、各ブロックのローカルルールは尊重される。
- 初版は 2018 年 9 月頃 (ブロック大会の募集がはじまる頃) に間に合うよう作業する。

4. NL 競技運営をメンター中心に実施することについて

- 当面、現状のままとする。
- 今年度のブロック大会から、3.で制作した「競技運営ガイドライン (初版)」の実践などを通じて、各ブロックの活動により多くのメンターが関わられるように促す。

5. NL サッカー-LW を新たに設けることについて

- NL サッカーは従前どおりとし、LW の新設は見送る。

6. OnStage の NL と WL の区分について

- 現行より “NL ルール緩和、WL との差別化を図る” ことが可能なのか TC で検討いただく。

7. NL チーム増に伴う WL チーム削減について

- 2019 和歌山大会のチーム比率は下表のとおりとする。

(チーム比率見直し案)

	カテゴリ	中津川大会	見直し案
サッカー	WSO	32	24
	WSL	64	56
	NSB	32	48 (37.5%)
	計	128	128
レスキュー	WRM	12	10
	WRL	21	20
	NRL	15	18 (37.5%)
	計	48	48
オンステージ	WOS	13	12
	NOS	9	10 (45.5%)
	計	22	22

8. NL は固定枠として各ブロックに 1 枠配分、残りを比例枠+特別枠とすることについて

- NL は固定枠として各ブロックに 1 枠配分、残りを比例枠+特別枠とする。

■日本リーグ・サッカービギナーズ

1) 年齢制限：

ロボカップジュニアの参加資格年齢（2019 年 7 月 1 日時点で 19 歳以下）を満たし、ジャパンオープン 2019 和歌山の共通ルールを順守している限り、特段の年齢制限は設けません。

2) 参加資格：

ジャパンオープン・日本大会のサッカーリーグ競技出場経験者を含むチームは参加できません。

3) チーム人数：

2 名以上 6 名以下とします。

4) 適用ルール：

ジャパンオープン 2017 ぎふ・中津川と同じ「ロボカップジュニア サッカービギナールール 2017」を採用します。

http://www.robocupjunior.jp/rule/2017rule-gifu-nakatsugawa/RulesJ2017_Beginner.pdf

■日本リーグ・レスキュー

1) 年齢制限：

ロボカップジュニアの参加資格年齢（2019 年 7 月 1 日時点で 19 才以下）を満たし、ジャパンオープン 2019 和歌山の共通ルールを順守している限り、特段の年齢制限は設けません。

2) 参加資格：

ジャパンオープン・日本大会のレスキューリーグ競技出場経験者を含むチームは参加できません。（ノード、ブロックでの出場経験は問いません）

3) チーム人数：

1 名から 6 名までとします。すなわち、1 人での参加も可能です。

4) 適用ルール：

ワールドリーグ・レスキュー・ラインと同一のルールを適用します。

(但し、初心者向けとして 行き止まり、避難場所 レベル 2 はありません。)

■日本リーグ・OnStage

1) 年齢制限：

中学生以下とします。

ジャパンオープン 2019 和歌山の共通ルールを順守している限り、参加年齢の下限は設けません。

2) 参加資格：

ダンスもしくは OnStage のリーグでジャパンオープンもしくは日本大会にて3位までに入賞経験をもつメンバーがいるチームはエントリーできません。また、このリーグで、チーム内に世界大会推薦経験をもつメンバーがいる場合もエントリーできません。

3) チーム人数：

2名以上6名以下とします。

4) 適用ルール：

日本リーグについては、2017年適用したルールを日本リーグ用ルールとして整備し直しました。またスコアについても項目や配点の変更があります。変更点は赤字で記載されているので、確認してください。

OnStage 日本リーグ 2018 国内ルール

https://drive.google.com/file/d/11tqTzBfd55xkgOmgobZ0JhcnEzGj7z_u/view

OnStage 日本リーグ 2018 インタビュースコア

https://drive.google.com/file/d/1Zo7qpfAG1aZ_w7pGkT5jieiG0cwUjgvy/view

OnStage 日本リーグ 2018 パフォーマンススコア

https://drive.google.com/file/d/1JR5S_JHzMdfA8of5TcO1ojPxd2CsrCh3/view